

活躍する卒業生



学生レポーターが広国大卒業生を密着取材!!



学生レポーター
白枝慎吾さん

1. 現在の仕事の内容を教えてください

ハウスメーカーの営業として、お客様の要望や予算に耳を傾け、住宅の案内だけでなく住まい作りのアドバイスをしています。住宅展示場におけるお客様の案内や戸別訪問を通じてお客様のニーズを的確にとらえ、お客様一人ひとりの要望に応えられるよう努めています。「家は一生に一度の買い物」と称されますが、住む人、暮らす人が未永く快適に過ごせるように、打ち合わせの時から家を建てた後もお客様とは一生のお付き合いをさせていただこうと考えています。

2. 仕事の「やりがい」とは、どんなときに感じますか?

お客様の要望にお応えできる提案を提示させていただき、ご契約いただいたときに仕事に対する充実感を感じます。お客様とお話させていただく中で「安心」と「信頼」を得ることのできる営業を心がけ、打ち合わせ時の平面図からニーズに合わせた形になるまで、お客様に納得いただけるよう仕事に励んでいます。

3. 今、目標や夢がありますか?

家は、住む方それぞれの家族構成やライフスタイル、価値観等によって間取りひとつから変わってくるので、お客様が何を求められているのかを察知し、適切なアドバイスやご提案ができるよう自身のスキルを上げなければと思います。将来、自分が担当させていただいた家をたくさん建てさせていただければ幸いです。

4. 学生時代の学びや経験は今の仕事に役立っていますか?

課外活動において、体育会副部長や剣道部主将を務めることで組織の動かし方や人との接し方について学ぶことができたと思います。営業というお客様との対応の中では、知識だけでなく細かい気配りやマナーなどが重要です。学生時代に課外活動を通じて経験したことは、今現在の仕事に大いに役立っていると思います。

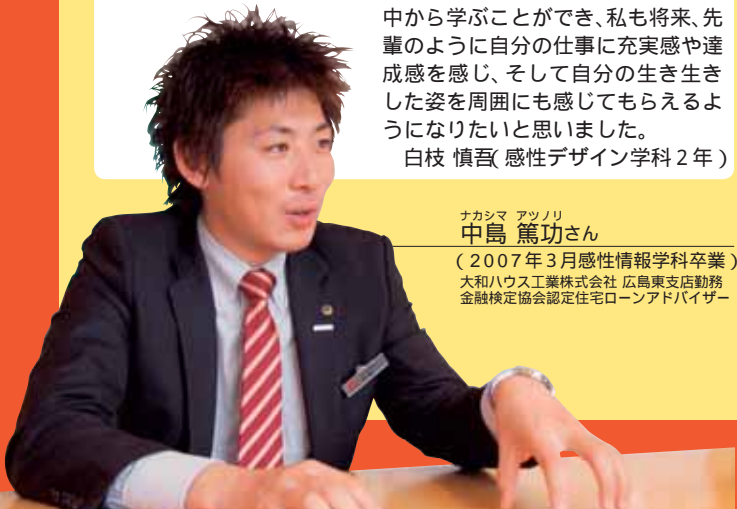
5. 本学の後輩へメッセージをお願いします

学生生活を通じていろいろな経験をして欲しいと思います。その経験は自分自身の財産となり、時として仕事をする中で役に立つこともあります。今という瞬間を大切に経験できることはたくさん経験し、悔いのない学生生活を過ごしてください。

【学生レポーター】

仕事に対する熱意や充実感を本学の卒業生の方からたくさん聞かせてもらい、将来について本気で考えさせられました。「自分から積極的に色々なことに取り組む」ということを中島さんの話の中から学ぶことができ、私も将来、先輩のように自分の仕事に充実感や達成感を感じ、そして自分の生き生きした姿を周囲にも感じてもらえるようになりたいと思いました。

白枝 慎吾(感性デザイン学科2年)



ナカシマ アツリ
中島 篤功さん

(2007年3月感性情報学科卒業)
大和ハウス工業株式会社 広島東支店勤務
金融検定協会認定住宅ローンアドバイザー

フクナガ アイコ
福永 愛子さん
(2007年3月看護学科卒業)
独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター・
中国がんセンター勤務 看護師

1. 入社のきっかけと仕事の内容について教えてください

在学中から、緩和ケアに興味があり、地元である呉市周辺で緩和ケア病棟がある総合病院での就職を希望しました。総合病院では、高度な医療設備のもと様々な病状を抱える患者様それぞれのレベルに合わせた治療を行うことができ、興味のある緩和ケアについても深く学べると考え、現在の病院を選びました。現在は、消化器内科の病棟に配属され、入院患者の看護を行っています。

2. 仕事の「やりがい」とは、どんなときに感じますか?

患者様に「ありがとう」と感謝の言葉をかけられたときです。その言葉に励まされ、自分自身「がんばろう」という気持ちにさせられます。そうやっていただけるためにも、患者様の希望や気持ちを察知し、対応することを心がけています。患者様によっては、話相手になるだけでも喜んでいただけることもあります。ですから、仕事に対して技術の向上に努めるだけでなく、患者様の不安や緊張感を和らげるためのコミュニケーション能力や関わり方についても大切にしています。

3. 学生時代の学びや経験は今の仕事に役立っていますか?

大学の先生をはじめ、先輩や友人を通じて、様々な人と出会い、物の考え方や視野が広がりました。特に2年生で体験したオーストラリア(メルボルン)での国際看護実習は、今でも貴重な体験となっています。この体験を通じて、人とのつながりの大切さを知ることができました。

4. 本学の後輩へメッセージをお願いします

浅い深いは関係なく、視野を広げる意味で学生生活を通じて、いろいろな経験をしてみるのが大事だと思います。大学では自分のペースで学ぶことができ、そのゆとりの中で自身を磨く時間はたくさんあると思います。「やりたい!」と思ったことは行動すること。その時感じたことが後に生きてくることもあるし、良好な人間関係を構築する手助けにもなると思います。

【学生レポーター】

OGの方の臨床での面持ちや看護に対する姿勢は、卒業して2年目だとは思えないほど、圧倒されるものでした。看護師としてもっと成長したい、患者様に緩和ケアを提供するというをより追究したいと話されている姿を見て、向上心を持つことの重要性を感じました。看護学生として、学生生活を送るうえでのアドバイスを頂いたので、これから、より積極的に様々なことに挑戦し、学生のうちでしか出来ない経験を積み、臨床現場に立てよう努めていきたいです。

平田 祐加(看護学科2年)

初めて臨床で働くOGの方の話を聞くことができ、今自分がやらないといけないことに気づくことができました。大学に入る前から自分がやりたい分野が決まっていて、今でもそれを目標に努力されていたのですごかったです。学校の実習以外にもボランティア活動などに参加して、たくさんの人と関わってみたいといよとアドバイスしてくださったので、大学生活で時間があるうちに積極的にいろいろなことに参加してみようと思いました。

宗田 知佳
(看護学科2年)

学生レポーター
平田祐加さん(左)
宗田知佳さん(右)

